

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年1月20日～2018年1月26日の推移】

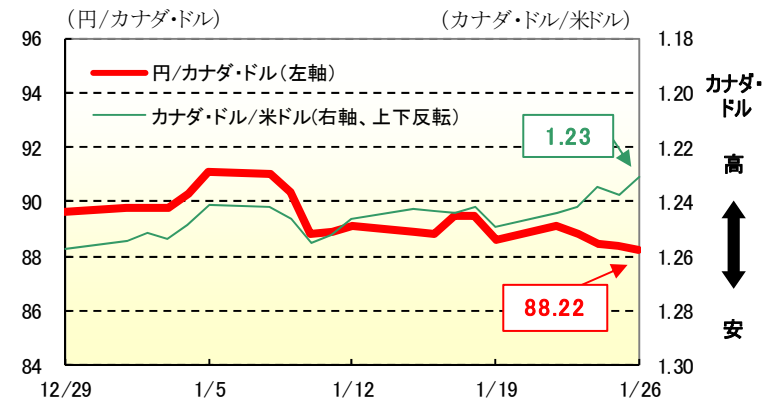
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米国金利や原油価格が上昇したことなどがカナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力となりました。また、米国のムニューシン財務長官が米ドル安を容認する発言をしたことなどにより米ドルが下落し、円高やカナダ・ドル高圧力が高まりました。

なお、小売売上高やCPI(消費者物価指数)が発表され、どちらも前月からの伸びは鈍化しましたが、市場への影響は限定的でした。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年12月29日～2018年1月26日)



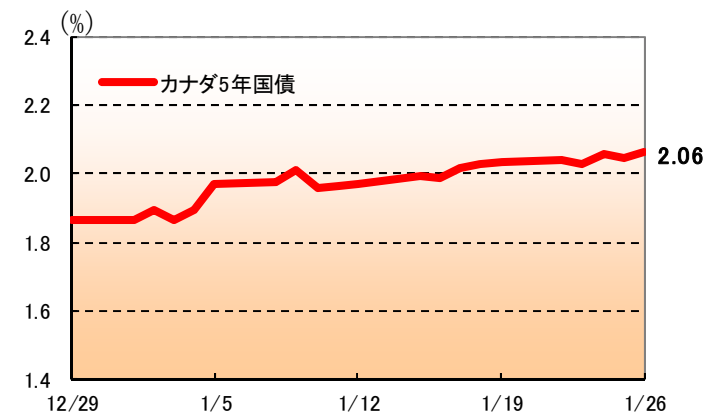
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは2017年11月分の月次GDP(国内総生産)が発表されます。前年比では年率3.4%の成長が見込まれており、カナダ経済の堅調さが確認される結果となれば、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

また、先週からカナダのモントリオールでNAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の第6回会合が開催されており、今週終了する見込みです。交渉は難航中で米国の脱退の可能性も報じられていることから、会合終了後に発表される共同声明に市場の注目が集まっています。

### 【カナダ 金利推移】 (2017年12月29日～2018年1月26日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>